

麻酔科 研修カリキュラム

【科の紹介】

麻酔科では手術中の麻酔を管理するだけでなく、周術期全般を管理することにより患者の予後を改善できることを目標にしている。これに則した術前管理、術中の麻酔管理、術後管理をしっかりと構築していかななくてはならない。ただ、マンパワー不足のためすべての全身麻酔症例を管理することはできないため重篤な合併症のある症例や侵襲の大きな手術症例、小児等を中心に麻酔管理をしている。研修医には短い研修の中で全身管理の大切さと基本的な手技ができるように指導している。

A. 一般目標

手術患者の周術期管理において、術前における全身状態と合併症の評価を的確に行い個々の患者に合わせた最適な麻酔計画を立案する。実際の麻酔施行時に気道確保、挿管、末梢静脈路確保等を行い心肺蘇生法の基本手技を習得していく。また、麻酔中の呼吸管理、循環管理を理解できるように努力する。手術後の呼吸管理、循環管理、疼痛管理を通して周術期全体を評価できるようにする。周術期のチーム医療の大切さ、重要性を身につけていく。

B. 行動目標

- 1)術前において患者の既往歴、現病歴、検査結果、診察所見より患者の全身状態を把握し麻酔のリスク等正しく評価できる。
- 2)個々の患者に合わせた最適な麻酔計画を立案できる。
- 3)麻酔器の基本構造を理解し、正しく始業点検ができる。
- 4)麻酔薬の種類を知り薬効を正しく理解している。
- 5)麻酔薬を適切に投与できる。
- 6)麻酔中の様々なモニタリングを装着することができ、値を正しく評価できる。
- 7)麻酔管理としての呼吸管理が理解できる。
- 8)循環作動薬を理解し使うことができる。
- 9)麻酔の重要性、危険性を理解できる。
- 10)麻酔後、回診にて必要な術後状態の把握ができ、麻酔との関連を理解できる。また、術後患者の状態を正しく評価できる。
- 11)患者本人そして家族に真摯な態度で接することができる。
- 12)気道確保ができる。
- 13)気管挿管がスムーズにできる。
- 14)エアウェイスコープを使うことができる。
- 15)末梢静脈路を確保できる。
- 16)動脈穿刺ができ観血的動脈ラインを挿入できる。
- 17)胃管を挿入できる。
- 18)輸液の適量を判断し、実施できる。
- 19)輸血の手順を理解し、実施できる。

C. 指導体制

1. 麻酔科医師は指導責任者として、ローテーション期間を通して研修の責任を負う
2. 患者の麻酔に関する直接的指導は個々の麻酔科医師(指導医)が行う。

- 定期的に研修医の研修目標達成の進捗具合を点検し、適切に研修医に指示を与えるか直接指導を行う。

D. 研修方略

1. オリエンテーション

- 1)研修カリキュラム・麻酔全般の説明
- 2)科の概要
- 3)担当患者の割り振りと患者説明

2. 症例ごとに研修医は指導医に付き術前から術後まで手術の周術期を管理していく。
3. 朝、8時30分に手術室の麻酔科室に集合し翌日の症例の術前を指導医とともにする。
4. 外来、病棟より入室し、電子カルテより術前回診・麻酔計画文書を作成する。同時に絶食・絶飲指示、内服薬、前投薬をオーダーする。その後手術室の薬品準備表を作成する。
5. 整形外科、耳鼻科、泌尿器科、産婦人科、形成外科、眼科、皮膚科はそれぞれ各科外来で術前をするため準備をして術前に臨む。
6. 当日の麻酔は指導医とともに麻酔計画に沿って進める。麻酔器始業点検、麻酔薬の準備、挿管準備等手早く準備しておく。
7. 麻酔は指導医とともに行き、基本的な手技を覚えながら麻酔管理の内容を把握して呼吸管理、循環管理などを通して全身管理を理解していく。
8. 麻酔終了後入室した患者の状態を正しく評価できるようにする。

【週間スケジュール】

	時間	内容	場所
月曜日	8:30~9:00	術後回診	病棟
	8:30~9:00	術前回診	各科外来
	9:30~	臨床麻酔実習	手術室
火曜日	8:30~9:00	術後回診	病棟
	8:30~9:00	術前回診	各科外来
	9:30~	臨床麻酔実習	手術室
水曜日	8:30~9:00	術後回診	病棟
	8:30~9:00	術前回診	各科外来
	9:30~	臨床麻酔実習	手術室
木曜日	8:30~9:00	術後回診	病棟
	8:30~9:00	術前回診	各科外来
	9:30~	臨床麻酔実習	手術室
金曜日	8:30~9:00	術後回診	病棟
	8:30~9:00	術前回診	各科外来
	9:30~	臨床麻酔実習	手術室

※毎日、麻酔終了後に翌日の麻酔症例検討会を行っている。

【カンファレンス・勉強会】

- 1) 研修終了直前に自分で実施した麻酔症例の中からテーマを決めてレポートを作成し発表する。
- 2) 麻酔科以外の研修中でも、以下の定例の研修会には参加し、スキルを習得する。

【定例研修会等】

会名	世話人	開催曜日	会場	備考
気管切開 Wet lab	麻酔科	毎年秋頃	実習室	
超音波ガイド下 CVC セミナー	麻酔科	毎年秋頃	実習室	

E. 研修評価チェックリスト

- 術前において患者の既往歴、現病歴、検査結果、診察所見より患者の全身状態を把握し麻酔のリスク等正しく評価できる。
- 個々の患者に合わせた最適な麻酔計画を立案できる。
- 麻酔器の基本構造を理解し、正しく始業点検ができる。
- 麻酔薬の種類を知り薬効を正しく理解している。
- 麻酔薬を適切に投与できる。
- 麻酔中の様々なモニタリングを装着することができ、値を正しく評価できる。
- 麻酔管理としての呼吸管理が理解できる。
- 循環作動薬を理解し使うことができる。
- 麻酔の重要性、危険性を理解できる。
- 麻酔後、回診にて必要な術後状態の把握ができ、麻酔との関連を理解できる。また、術後患者の状態を正しく評価できる。
- 患者本人そして家族に真摯な態度で接することができる。
- 気道確保ができる。
- 気管挿管がスムーズにできる。
- エアウエイスコープを使うことができる。
- 末梢静脈路を確保できる。
- 動脈穿刺ができ観血的動脈ラインを挿入できる。
- 胃管を挿入できる。
- 輸液の適量を判断し、実施できる。
- 輸血の手順を理解し、実施できる。